

令和5年2月1日

自由民主党 礎

代表 田方 芳信 様


八代市議会自由民主党 礎


管外行政視察復命書


視察期間 令和5年1月11日（水）～13日（金）

視察先 沖縄県糸満市～石垣市

参加者

議員 田方 芳信 

議員 上村 哲三 

議員 金子 昌平 

議員 谷川 登 

議員 友枝 和也 

議員 成松 由紀夫 

自由民主党 礎・絆・和 視察所見

議員名【田方芳信】

- ◆視察日：令和5年1月11日（水）
- ◆視察先：沖縄県糸満市
- ◆調査項目：農業の振興について、観光・リゾート産業の振興について

外国クルス受入れや誘致については具体的な  
事業は特に、行、く、いた、い、が、民間事業者におい、多様な  
受入れ対応を行、る、い、る、う、だ、。

糸満市の特性を活かし、持続的で魅力的な  
農業の振興を図り、高収益構造へ転換（211KTC）  
基盤となる 土地や 施設、技術の活用にか、  
入、れ、い、く、と、の、事

# 自由民主党 礎・絆・和 視察所見

議員名【 田方 芳信 】

- ◆視察日：令和元5年1月12日（木）
- ◆視察先：沖縄県石垣市
- ◆調査項目：石垣島における農産物の現状と課題について  
市内での消費動向と県外への販売経路の状況について 他

本市の農業は 亜熱帯の地域特性を活かし

肉用牛の生産を中心にさとうきび、パイナップル、水稲、葉タバコ、マンゴー等の熱帯果樹、野菜等の生産が多様に展開されている。

特に肉用牛の生産頭数は県内生産頭数の

約30%を占めおり県内に有数の肉用牛の

供給生産をせたとし一定の地位を占めているようだ。

その構成比は肉用牛が60%、さとうきび17.3%

パイナップル4.5% 水稲2.5%

自由民主党 礎・絆・和 視察所見

議員名【 田方 芳信 】

- ◆視察日：令和元5年1月18日（金）
- ◆視察先：本原豊店
- ◆調査項目：

石垣島には豊店は千店舗しかない。

今後は水草の栽培も取り組んでいく事。

# 自由民主党 礎・絆・和 視察所見

議員名 【上村哲三】

- ◆視察日：令和5年1月11日（水）
- ◆視察先：沖縄県糸満市
- ◆農業の振興について、観光・リゾート産業の振興について

## ① 農業の振興について

糸満市は、亜熱帯海洋性気候で、2種の肥沃な土壌で、農業は、サトウキビを基幹に野菜・花卉・果樹・肉用牛が盛んで、国営地下ダム灌漑整備により施設栽培を中心に多品目生産が特徴。ゴーヤ・レタス・にんじん・パッションフルーツ・小菊・肉用牛・マンゴウ・きゅうりの8品目は沖縄県より農林水産戦略品目として拠点産地の認定を受けている。農産物の多くは、沖縄県農業協同組合を通して県内、県外へ出荷。総農家数 956戸（内販売農家数612戸）、耕地面積1410ha、農業産出額52億円

○現状と課題については、農業生産基盤の促進・農産物の品質向上・耕作放棄地等がありこれは、持続的農業、国際規格への対応、スマート農業など新分野への施策展開も必要である。

スマート農業では、「スマート農業機器導入事業」を4市町・9社のIT関連企業と連携協定を締結し、実証実験を開始したものの農家さんの理解度が低く今後の啓発活動が大切である。

又、農産物の販路拡大・流通・輸送コストについては、離島特有の課題であり、国や県との協働取り組みが今後重要になると感じた。

更には、農家の形態は個人家族経営が多く後継者、労働力の不足も危惧される。対策は急務であると感じる。

## ② 観光・リゾート産業の振興について

外国クルーズ（インバウンド）の受け入れ、対策、誘致では糸満市にはクルーズ船対応の港湾施設がなく、民間事業者において多様な受け入れ対応を行っている。外国人への対応は、道の駅いとまんへwifiやサイネージを市内主要観光施設において観光看板の設置を行っている。

観光資源の発掘、情報発信では、令和4年、市のゲートウェイ機能を備えた文化・平和・観光振興センターの複合施設「シャボン玉石けんくくる糸満」をオープン令和2年オープンの「糸満市場いとまーる」は、糸満市公設市場をリニューアルし観光施設の機能を果たす。

糸満の2大行事「糸満ハーレー、糸満大綱引き」や「糸満ふるさと祭り」等、市

内の各種機関・団体の連携と調和を密にし観光の一役を担う。

糸満市観光協会では、観光業、商工業に対し育成補助金により民間活用を主としている。

ある意味他人任せの分が大きく感じ、行政の積極的関与が望ましく感じる。しかし、これは風土的なものかも知れない。何事にもおおらかであると感じた。

議員名 【上村哲三】

- ◆ 視察日：令和5年1月12日（木）
- ◆ 視察先：沖縄県石垣市
- ◆ 石垣市における農産物の現状と課題について  
市内での消費動向と県外への販売経路の状況について

① 農業と農産物の現状と課題について

○石垣市は、我が国の最西南端、八重山諸島最大の島である。

気候は、亜熱帯海洋性気候、周年を通じ温暖だが、夏秋期の台風や冬季の北東の季節風は、農作物の生育を阻害する大きな要因となっている。

近年は、しばしば干ばつの被害が発生している。

○農業の概要は、総農家数は令和元年度586戸、全て販売農家で、減少が著しい。

耕作面積は、5,300ha（畑4,980ha、田318ha）

肉用牛の生産を中心に、サトウキビ・パイン・水稲・葉タバコ・マンゴー・等の熱帯果樹、花卉、野菜等の生産が多様に展開されている。

肉用牛の生産頭数は、県内の約30%で、その生産構成比は、肉用牛 60,1%、サトウキビ 17,3%、パイン 4,5%、水稲 2,5%である。肉用牛の農業産出額は67億円・サトウキビは11億円と全体の8割近くを占める。

パインアップルは、近年、生食用の需要増加に合わせ、品種ともに増加している。カンショ（サツマイモ）の生産も増加。

- ② 消費動向はパインアップルは以前は加工メインであったが、近年、生食で地元学校給食への提供等を進めながら、本土有効都市へのトップセールスでの販促が進められている。

肉用牛については、高品質生産体制の推進から「石垣牛」ブランド化を推進し今後の展開に期待したい。パインアップル・マンゴー等の果樹類も輸送費の問題を解決し島外への販路拡大が進めば良いと思う。

自由民主党 礎・絆・和 視察所見

議員名

【上村哲三】

- ◆視察日 : 令和5年1月13日 (金)
- ◆視察先 : 石垣市本原畳店
- ◆調査項目 : 畳視察店の現状

- ① 製造品目は、イ草 (八代産、中国産)、しっとう (大分産)、ビーグ (自家栽培八重山産) を使った畳・雪駄・サンダル・お棺の底の敷物等
- ② 材料については、その特色を精査し使用している。畳需要の減少傾向から今後は、タペストリー等も取り組みたいとのことである。

○石垣島では、国産畳表の安定的供給が、様々な要因で難しい為、本原畳店の社長がイ草の生産に取り組まれており (自家栽培、八重山育ちと銘) 八代市に学び安定供給をめざし努力しておられる。目的が全う出来るよう見守りたい。

又、イ草を使った小物入れや装飾品等石垣島の特産品として認知される製品についても期待したい。



## 自由民主党 会派 礎 行政視察所見

議員名【 金子 昌平 】

- ◆視察日:令和5年1月11日(水)
- ◆視察先:沖縄県糸満市
- ◆調査項目:(1)農業の振興について  
(2)観光・リゾート産業の振興について

### (1) 農業の振興について

沖縄本島南端に位置する糸満市の農業は、国営かんがい排水事業で整備された地下ダムの恩恵を受け、サトウキビを基幹に、野菜、花卉、果樹、畜産など、多品目生産が施設栽培を中心に行われている。中でも、ゴーヤ、レタス、ニンジン、パッションフルーツ、小ギク、肉用牛(子牛)、マンゴー、キュウリの八品目は、沖縄県より農林水産戦略品目として拠点産地の認定を受け、同市の主力産品であるキュウリは、県内一位の生産量(出荷量)である。また、地元農産品の地産地消や学校給食提供の推進により、産地の「維持・強化」が図られており、新規就農2年目にもかかわらず高単収を実現した生産者も現れているという。一方では、農業生産基盤の促進、農産物の品質向上、耕作放棄地が課題となり、生産基盤・栽培施設の整備が求められている。今後の農業振興には、持続的農業、国際規格への対応、スマート農業の推進を図る必要がある。先進的な取組として、農業の課題の一つである「農作業の効率化」を図るため、KDDIの協力を得て、いつでも、どこにいても畑の状況を携帯電話にお知らせする農作業支援通知システム、農業IoT「てるちゃん」を推進している。実証実験の結果を踏まえ、温度確認に係る移動時間の短縮や夜中の電照確認の

見回り時間の100%削減に確実に成功したものの導入者は、農業者の半数以下に留まっており、今後は、クラウド上に集めたデータをAIに分析させ効率化を図るシステムの構築など新たな展開を推進するとともにスマート農業の魅力発信を進めながら普及に繋げていく。

## (2) 観光・リゾート産業の振興について

糸満市には、「史跡・戦跡・自然・歴史・文化・伝統」による有力な観光資源が多く、市内の主要観光施設入館者数は、コロナ禍前、年間130万人に上る。外国クルーズ（インバウンド）対策は、民間事業者による独自の受け入れ対策により、行政による具体的な事業は得に無いが、外国人観光客に対する「多言語看板」や「デジタルサイネージ」の設置をしている。また、令和4年4月にオープンした、文化・平和・観光振興センターの複合施設である「シャボン玉石けんくくる糸満」を中心に、アフターコロナを見据えた観光客の大幅増加に期待している。他にも、伝統的な「糸満ハーレー」や「糸満大綱引き」の二大行事や歴史的な観光スポットも盛んであるが、農園を活かしたイルミネーションイベントやバギーツアーなど観光農園の事業にも注力している。また、今や観光資源ともなっている複合型商業施設の「道の駅いとまん」は、県内で一番の売り上げ（約15億円）を誇っており、中でも、地元の農産物を販売する「ファーマーズマーケットいとまん」は、地産地消の観点からも地元農業者を支えている。

観光業、商工業に対する補助金制度等としては、新型コロナウイルス感染症対応地方臨時交付金を活用した、観光・スポーツ振興課が所管する事業支援として、観光商品創設モニター事業、観光プロポーシ

ヨン事業、Re いとまん観光客誘致促進事業、貸切りバス利用促進事業、賑わい創出支援事業、スポーツイベント誘致促進事業、グリーンスローモビリティ導入事業、地域経済と暮らしを支える商品券事業、観光誘客促進事業など、有力な観光資源を活かした糸満市独自の事業支援を展開している。また、商工水産課が所管する支援事業では、「物価・燃料高騰」や「電力・ガス・食糧費高騰」に対応した、いとまんプレミアム商品券事業や糸満市内全事業者に対する、個人（6万）、法人（12万）の支援給付金を八代市と同様の支援を展開している。

本市においては、持続可能な人と企業に選ばれるまちを目指す本市の提案が、「SDGs 未来都市」に選定されている。また、特に先導的な取組を行う自治体として「自治体 SDGs モデル事業」にも選定され、地域課題の解決に向け、デジタル技術も活用しながら市内外の「人・企業・団体・地域」が、八代の豊富な農林水産物等を活用した「食でつながる」機会を創出し、「経済・社会・環境」が持続的に発展する仕組（体制）を構築する、Move Forward！「SDGs フードマッチングプロジェクト」事業を推進している。この取組には、糸満市の「観光・農業」を上手く組み合わせた先進的取組と同様に、八代市にある、農林水産業や商工業などの地域産業との連携強化を図ることで、市民生活の魅力づくりと観光振興を両立させる持続可能な観光まちづくりの推進が期待できる。

## 自由民主党 会派 礎 行政視察所見

議員名【 金子 昌平 】

- ◆視察日：令和5年1月12日（木）
- ◆視察先：沖縄県石垣市
- ◆調査項目：（1）石垣島における農産物の現状と課題について  
（2）市内での消費動向と県外への販路経路の現状について  
（3）農産物及び加工品のブランド化及び販路拡大に関する取組について

石垣島の地帯は、1市2町から構成され、沖縄本島、西表島に次いで3番目に大きい島で県土面積に占める割合も高い。農業では、亜熱帯の地域特性を活かし、肉用牛の生産を基幹に、さとうきび、パイナップル、水稲、葉タバコ、マンゴーなどの亜熱帯果樹、花卉、野菜等の多種多様な農業生産が展開されている。耕地面積については、令和元年で、5,300ha（畑4,980ha, 田318ha）となっており、さらに畑の内訳は、普通畑が49%、牧草地46%、樹園地5%で、牧草地面積が県内全体の21%を占めていることから、肉用牛の主要産地であることが伺える。農家数の動向は、令和元年度の総農家数（販売農家）は、586戸（専業296戸、兼業290戸）であり、平成27年度と比較すると196戸減少し、課題には、担い手不足が挙げられるが、後継者が存在する農家では、高単収の生産者が多い傾向のようである。農作物のブランド化として注力されているパイナップル（生果用）は、沖縄県より拠点産地認定を受け、生産農家、行政、関係機関が一体となり他産地と差別化できる産地づくりを目指し、外国産にも負けないブランド化を確立しており、日本各地で「試食会・販売会」を開催し、PR事業にも懸命に取り組んでいる。ま

た、カンショ（沖夢紫）のブランド化にも成功しているが、現在の技術では、生物としての本土への出荷は厳しく、地産地消として、パイんとともに小学校給食に提供している。また、水田も多く存在することから、県内で生産される米の約6割がこの地域で生産されており、5月中旬から収穫される日本一早い「超早場米」は、県内外で人気商品となっている。次に、石垣島の基幹産業となる「石垣牛」のブランド化は、平成13年に開催された「九州・沖縄サミット」の晩餐会で食され絶賛されたことを皮切りに、「石垣牛」がブランド牛肉として知名度が向上し、その後、平成20年には、特許庁より地域団体商標（地域ブランド）を取得しており、令和2年度のJA石垣牛販売実績は855頭、約8億円であった。また、「八重山食肉センター」では、牛と畜解体、内臓処理、部分肉加工の部門で製品の安全性を確保する管理手法の認証を受けており、島内需要の安定を図りながら今後も、「沖縄振興特別推進交付金」の「肥育牛販路拡大推進補助金」の展開と併せて海外輸出向け販路拡大を目指している。

本市においては、世界に通じる「やっしろブランド」の創出に向けて、「フードバレーやっしろ基本戦略構想」を策定しており、本市にある豊富な農林水産物を活用した魅力ある新商品の開発や「食」と「観光」によるブランドづくりとして、「やっしろ全国花火競技大会」や「九州国際スリーデーマーチ」等の大規模イベント等を活用したプロモーションの実施により、特産品等を活用した付加価値の創造と特産品等の認知度の向上に向け取り組まれている。今後も日本一となり得る地元特産物を活かし各種団体との横断的組織を形成しながらブランド化や販路拡大事業に向け懸命に取り組む必要がある。

## 自由民主党 会派 礎 行政視察所見

議員名【 金子 昌平 】

- ◆視察日:令和5年1月13日(木)
- ◆視察先:沖縄県・石垣島
- ◆調査項目:(1)本原畳店について

本原畳店は、1946年に石垣島で創業され、現在は3代目となり八重山諸島全域に渡り、ビーグ(い草)とミンサー柄畳縁にこだわりを持った畳を提供している。石垣島によるビーグ栽培に至った経緯については、沖縄本島うるま市で生産されている「沖縄県産ビーグ」の需要が石垣島でも高まる中、うるま市における農家の高齢化等の理由による生産量の減少に危機感を抱いた2013年に、うるま市の生産者から株を分けてもらい、5年間の試行錯誤を繰り返した結果、石垣島での初収穫に成功し現在に至っている。八重山育ちビーグの特徴として、八代産のい草と比較すると1本の太さが2~3倍位の違いがあり、畳としての「耐久性・弾力性」に優れている。また、い草元来の効能にある、「調湿作用・断熱作用」は、沖縄の気候には最適のようであり、畳の需要は高い傾向にある。さらに6次産業化としても、2019年に「畳嫁」という畳雑貨のブランドを立ち上げられている。この「畳嫁」のオリジナル商品には、令和2年度に沖縄県優良県産品として優秀デザイン賞を受賞された「雪駄」がある。素材として、石垣島と沖縄本島産のビーグのみを使用し、「弾力性・通気性」の特性を活かし、履き心地の良い品質として開発されている。他にも、SDGsの取組みとして、古ゴザをリサイクルして作られた「畳嫁ゴザ」やオリジナルのミンサー畳縁を使用した「畳嫁ポーチ」など独特のオリジ

ナル商品開発に成功されている。今後は、ビーグ栽培農地を拡大していく事で石垣島にある耕作放棄地の解消に繋げていくとともにワークショップを開催しながら畳文化の認知度向上や需要拡大に向け取り組まれる。

#### 視察風景



店舗の外観



イ草の比較



加工工場の風景



「畳嫁」ブランド看板



優秀デザイン賞「雪駄」



「畳嫁ポーチ」

本市においても、日本一の畳表産地であり、全国の約9割を占め、日本の生活文化を支えているが、近年、外国産の畳表、化学表、和紙表の急増により、日本古来の天然の「畳」が失われつつある。八代産の「い草・畳表産地」の活性化と安定的振興を促すため、八代畳のブランド化を確立させるとともに外国産畳表との差別化を図りながら、「生産・流通・販売」に関する事業を集約的に実施し、また、6次産業化としても知恵をしばり新たな商品を開発等にも注力し、引き続き大々的なPR事業の展開が必要である。

会派 自由民主党 {礎・絆・和}

行政視察所見}

議員名「谷川 登」

視察日 令和5年1月11日{水曜日}

視察先 沖縄県糸満市

調査項目 農業の振興について、観光・リゾート産業の振興について

糸満市の農業振興は、サトウキビ基幹に、野菜、花卉、果樹、肉用牛などが盛んで、国営地下ダムかんがいの整備により、かん水利用が容易に行われるようになったため、施設栽培を中心に多目品生産が特長となっており、なかでもゴーヤ、レタス、ニンジン、パッションフルーツ、小菊、肉用牛、マンゴ、キュウリの8品目は、沖縄県より農林水産戦略品目として拠点産地の認定を受けている。農家件数956戸、うち販売農家数612戸で耕地面積1,410haで、農業産出額52億円である。

又、現在、糸満市では、耕作放棄地等が課題となっており、生産基盤、栽培施設の整備等必要となっており多様な資源活用のため、農業用廃プラスチック処理や畜産廃棄物の利活用などが課題となっている。

また、農業の振興については、スマート農業機器導入事業では、平成29年4月市内小売事業者との情報サイトやネットショップの開設、スマートフォンに対応したオンラインカード決済などの提供し若年層へのプログラミング学習によるIT関連人材の育成などを実施するためのプロジェクトを発足し4市町9社のIT関連企業と連携協定を締結している。

また、糸満市では、肥料高騰などに対する補助金制度を令和4年12月1日～令和5年2月28日の間、市内在住の農家に対して売上高が過去3年間のいずれかの同月と比べて30%減少し、かつ今後も事業を継続される方に、個人であれば一律6万円、法人であれば12万円支援をしている。また、新型コロナウイルス感染症の影響により学校給食による牛乳の出荷制限の影響を受けた酪農家に対して飼料購入1頭当たり72,206円支援をしている。

外国クルーズの受入や誘致については、具体的な事業は特に行っていないが、民間事業者において、多様な受入対応をしており、外国人への対応については、平成31年度に道の駅いとまんへサイネージを設置し、市内主要観光施設においては、多言語看板設置を行っている。

観光資源の発掘情報発信については、令和4年4月にオープンした「シャボン玉石けんくる糸満」は市のゲートウェイの機能を備えた文化、平和、観光施設として利用され取組んでいる。



会派 自由民主党 {礎・絆・和}

行政視察所見}

議員名「谷川 登」

視察日 令和5年1月12日{木曜日}  
視察先 沖縄県石垣市  
調査項目 石垣島における農産物の現状と課題について  
市内での消費動向と県外への販売経路の状況について

石垣島の農産物は、亜熱帯の地域特性を生かして、肉用牛の生産を中心にさとうきび、パイン、水稻、葉タバコ、マンゴー等の熱帯果樹、花卉、野菜等を栽培がなされており、肉用牛の生産頭数は、県内生産頭数の約30%を占めている。農産物の内訳構成比は、肉用牛が60.1%、さとうきび17.3%、パイン4.5%、水稻2.5%である。また、石垣市の総農家数{販売農家}は、令和元年度は586戸内訳専業農家296戸、兼業農家290戸、平成27年と比べると農家数は、196戸減少しておりその全てが販売農家となっている。

また、肉用牛は、温暖な自然条件をいかして、草地開発等飼料基盤の整備や畜産基地事業等の振興策の推進により、令和2年の飼養戸数23,286頭で、飼養農家戸数493戸になっており、肉用牛の農業産出額は、67億である。

さとうきびは、石垣市の基幹作物であり、令和2年の収穫面積は、1,336haで生産量は、85,658トンであり、令和元年度の産出額は11億円肉用牛について2番目の産額となっている。また、令和2年の水稻作付面積は、一期作、二期作合わせて358haで県全体55.0%を占め、生産量1,130トンになっており、10a当たりの収量は、368kgで、二期作は台風被害等もあり収量は少ない。

石垣市内での消費動向の現状については、市内での出荷を目的として肥育管理に供する畜産農家に対し、肥育素牛の育成期間に要する濃厚飼料費として、今年度は、250頭に対して50,000円を予算の範囲で補助金を交付する事業に取り組んでいる。また、新型コロナウイルス感染症対応地方創成臨時交付金活用事業で、お肉券を発行し地域における石垣島産お肉の消費拡大を図るため、1,000円のお肉券を800円で販売している。

石垣牛のブランド化については、平成13年の沖縄サミット晩餐会にて食されたことで、名声が高まりその後、平成20年、地域団体商標を特許庁より登録が許可されたことで更に需要が増えている。

学乳生産安定供給対策事業は、学校給食牛乳の供給停止などにより収入が激減した石垣島乳業協業組合に対して地方創生臨時交付金活用事業に取り組んでいる。

会派 自由民主党 {礎・絆・和}

行政視察所見}

議員名「谷川 登」

視察日 令和5年1月13日{金曜日}  
視察先 沖縄県石垣市  
調査項目 本原豊店

本原豊本店は、昭和21年に石垣島で創業し、自家栽培ビーグ八重山育ちとカヤツリグサの栽培から琉球豊への加工まで行っている。

また、平成25年に、うるま市い草農家より株分けをしてもらい、沖縄県産ビーグの新たな担い手になるべく、5年かけて試行錯誤を繰り返し平成30年に初収穫ができ、現在でも、手作業で虫や雑草を取り除き最低限必要な肥料のみで栽培するなど、なるべく自然に近い状態での栽培をしている。

い草の、ビーグの特徴は、沖縄の方言でい草のことで、太くて丈夫、一本の太さは2倍～3倍であり、泥染めをしてないとゆう特徴で、太さが太い分、豊にした時の耐性弾力性に優れており、カヤツリグサの豊は、ビーグと違った素朴な風合いが魅力で、カヤツリグサの豊表を石垣島栽培し、元祖琉球を復活させ、地域の産業として石垣島に根付くことを目標に取り組んでいる。

# 自由民主党 礎・絆・和 視察所見

議員名【 友枝 和也 】

- ◆視察日：令和5年1月11日（水）
- ◆視察先：沖縄県糸満市
- ◆調査項目：農業の振興について、観光・リゾート産業の振興について

## (1) 農業の振興について

糸満市の農業は、サトウキビを基幹に野菜、花卉、肉用牛などが盛んで、国営地下ダム灌漑の整備により、かん水利用が容易に行われるようになり、施設栽培を中心に多品目の生産が特長。

ゴーヤ、レタス、ニンジン、パッションフルーツ、小ギク、肉用牛（子牛）、マンゴー、キュウリの8品目は、沖縄県より、農林水産戦略品目として拠点、産地の認定を受けている。

スマート農業の推進や畜産業の活性化へ若年層へのプログラミン  
グ学習によるIT関連人材の育成などを実施するためのプロジェクト「クラウド オン オキナワ」を発足し、4市町と9社のIT関連企業とで連携協定を締結している。

(2) 観光・リゾート産業の振興について

外国人クルーズ（インバウンド）の受入、対策及び誘致については、具体的な事業は特に行っておらず、民間事業者において多様な受入対応を行っており、外国人への対応については、平成31年度に“道の駅いとまん”へWi-Fiやサイネージを設置しているとのこと。

令和4年4月にオープンした「シャボン玉石けんくるる糸満」は、市のゲートウェイの機能を備えた文化、平和、観光振興センターで移動式観客席582席を有し、観客席収納時には、平土間として利用でき、MICEなどの大規模な会議やイベントが開催できるとのこと。

## 自由民主党 礎・絆・和 視察所見

議員名【 友枝 和也 】

- ◆視察日：令和5年1月12日（木）
- ◆視察先：沖縄県石垣市
- ◆調査項目：石垣島における農産物の現状と課題について  
市内での消費動向と県外への販売経路の状況について 他

石垣市役所へ向かう道中、サトウキビの収穫が大型ハーベスターにて行われており、作業風景を見ることでできた。石垣市で確認すると、組合でハーベスター30台を導入し、労働力の軽減効率化を進めているとのことであった。

外国人研修生の受け入れは、コロナの影響を受け苦勞しているとのこと、本市と同様であると感じた。

パインやマンゴー、石垣牛などのブランド化はJAとの連携で行っており、ふるさと納税で石垣牛は人気があるとのこと。

石垣市の農業生産額の約70%を占める畜産物は、昨今の飼料の高騰により苦慮しているが、後継者のいる農家は規模拡大などで利益を上げているとのこと。

## 自由民主党 礎・絆・和 視察所見

議員名【 友枝 和也 】

- ◆視察日：令和5年1月13日（金）
- ◆視察先：本原豊店
- ◆調査項目：沖縄におけるい草の栽培及び畳表の現状

本原豊店視察前日にも、ビーク（い草）の圃場と機械倉庫を事前に見学。当然のことながら、本市とは規模感が違う。

圃場の土は乾燥するとスコップが入らないほど固くなる土質で、水を入れて掘り起こし、高圧の水で苗を洗い、泥を落としてから株分けを行っているとのこと。そのような苗をきれいに洗う手法では苗が痛むため、苗を掘り出し、数日置いて乾燥した状態で泥を叩き落すことを勧めた。本市での栽培方法で除草剤の種類や散布方法を伝えるなど意見交換を行った。

機械倉庫の中には新品のハーベスター1台、中古のハーベスター1台、新品のい草選別機が格納しており、ござ織機も3台（1台新品）があった。

本原豊店では、七とう表、ビーク表も見学させてもらい、熊本県

産の畳表も取り扱いがあるとのこと。近々、JA八代の職員も来訪  
される予定とのこと、今後八代産の畳表の取り扱いも増やす予定  
とのこと。

石垣市における畳表の需要は、昨今の和室の減少に伴い減少傾向  
であるが、公営団地やアパートにはまだ和室もあり、国産畳表を使  
用したいとの声は増えているとのこと。

## 自由民主党 礎・絆・和 視察所見

議員名【成松由紀夫】

- ◆視察日：令和5年1月11日（水）
- ◆視察先：沖縄県糸満市
- ◆調査項目：農業の振興について、観光・リゾート産業の振興について

- 外国クルーズの受入や誘致については民間において多様な受入対応を行い、外国人の対応については、H31年道の駅いとまんへWifiやサイネージを設置し、主要観光施設には多言語看板の設置している。
- 観光資源の発掘、情報発信については、R4年オープンした「シャボン玉石けん・くさ糸満」、R年オープンした「糸満市場いとまーる」が市のゲートウェイとして複合観光としての機能を果たす
- スポーツイベント誘客促進事業として「ロゲイニング」やキャンプ誘致に県がかなり力を入れており、スポーツコンサリから進げてもらう。千葉ロッテ、バガルダイ仙台、FC東京の誘致も果たし、誘客事業も含め、かなりの経済効果をもたらしている。現在「ロゲイニング」は民間に任せ



自由民主党 礎・絆・和 視察所見

議員名【成松由和夫】

- ◆視察日：令和5年1月11日（水）
- ◆視察先：沖縄県糸満市
- ◆調査項目：農業の振興について、観光・リゾート産業の振興について

いる。また、雨天練習場の整備も進んでおり、45m×45m  
の規模で予算は20億円。

自由民主党 礎・絆・和 視察所見

議員名【成松由紀夫】

◆視察日：令和5年1月12日（木）

◆視察先：沖縄県石垣市

◆調査項目：石垣島における農産物の現状と課題について  
市内での消費動向と県外への販売経路の状況について 他

。パイナップル、マンゴーが基幹農作物であり、収穫も6月末から7月末までの短期間に集中させている。マンゴーは気候を活かしながら、ハウスが基主流である。

。農産物のブランド化にも積極的にとり組み、情報共有情報発信も徹底し、市長自らのトップセールスを展開している。

。生パイナップルが学校給食に出ていることがわかり、地産地消の観点から、現在は導入している。また、パイナップルに限らず、マンゴーや車えび、くまぐら等、国の臨時交付金を活用して飛行機便を主要都市へ飛ばしている。

。安定した生産を行い、ブランド化や付加価値を上げる為、加工品の原料として生産販売するのではなく、青果の価値の

自由民主党 礎・絆・和 視察所見

議員名【 成松由紀夫 】

- ◆視察日：令和 5年1月12日（木）
- ◆視察先：沖縄県石垣市
- ◆調査項目：石垣島における農産物の現状と課題について  
市内での消費動向と県外への販売経路の状況について 他

見直しや、食品加工（6次産業化）も産地一体として行い、

付加価値を高める為、PR活動を行う。

ブランド化のポイントとしては、マスコミ発信やJAとの連携

が有効であったと思われ、ふじと納税としての他市

との交流は現在、泉佐野市や岡崎市等、友好都市

を中心に協定等も活用しながら展開している

議員名【成松由紀夫】

◆視察日：令和5年1月18日（金）

◆視察先：本原畳店

◆調査項目：

○本原畳店は1946年石垣島で創業し、八重山諸島  
全域の畳工事を請りおい、「沖縄県産い草（ビーク）」  
を栽培から加工までをおこなっています。

○「ビーク」は本土のい草と違って、太くて太くて  
あり、1本の太さが2～3倍にもなり、泥ぞめを  
しないという特徴がありました。

○本原畳店は八代産い草を仕入れており、ハーバ  
スタも買いかえて、そろえられ、八代産のい草につ  
いても熱心に研究をされており、八代の生産者  
とも交流を続けておられ、い草の生産についても  
共に学んでいくという姿勢が、特に印象的で  
あり、我々、い草業界連もしっかりと今後、とりくんで  
いくべきだと感じました。